

やながわ歴史文化講座

どなたでも受講できます。事前の申し込みも必要ありません。入場無料。

日時 9月10日(土)、午後2時～4時

場所 三橋公民館 2階 研修室3・4

演題

「兵(つわもの)どもが夢の跡～南筑後の古戦場～」

講師

大城美智信さん(福岡県地域史研究連絡協議会長)

問い合わせ先 市教育委員会 生涯学習課文化係

☎72・7111内線222

市民福祉講座

講座	開講日	テーマ・講師
第1回	10月4日(火)	成年後見制度って、なに？ ～自立生活を支えるために～ 講師：板橋正勝司法書士・行政書士
第2回	10月18日(火)	地域における高齢者支援を考える ～今、地域の高齢者に何が起きているのか～ 講師：筑紫女学園大学人間福祉学科 山崎安則助教授 講義前に実践発表と課題提起があります。
第3回	11月8日(火)	知って得する、個人情報保護法 ～あなたの個人情報は守られていますか～ 講師：原田直子弁護士
第4回	11月22日(火)	子どもを守る地域の役割 ～みんなで作るよう子育て支援～ 講師：子育てすんなら柳川たい 横地景子副会長

時間 午後1時30分～3時

場所 大和公民館 1階 第2研修室

対象 市内在住で、2回以上受講可能な人

募集人員 30人程度

参加費 1000円(4回分の資料代)

申し込み締め切り 9月30日(金)

申し込み、問い合わせ先 市社会福祉協議会 各支所

柳川支所☎72・5347 大和支所☎76・4833

三橋支所☎73・6955

～筑後チルドレンズ・キャンパス事業～

有明海まるごと体験 参加者を募集

有明海で営まれている海苔養殖などの産業や干潟に住む生物を楽しく学び、水のめぐみや自然と共生する人間生活のしくみについて理解を深めます。



日時

第1回＝9月24日(土) 午前10時～午後5時

第2回＝11月19日(土) 午前10時～午後5時30分

集合場所

市内の人：第1回＝両開公民館 第2回＝柳川市役所

市外の人：第1、2回とも西鉄柳川駅(10時集合・出発)

内容

第1回＝有明海でのたこ釣り体験、干潟の生物の研究など

第2回＝海苔ひび見学、海苔製造工場見学

有明海清掃船「柳丸」での清掃活動体験など

参加対象 小学4～6年生(親子での参加可)

募集人員 各25人

(定員を超えた場合は、事務局で抽選し決定します)

参加費 1人1回分1000円(当日集めます)

締め切り 9月14日(水)

申し込み、問い合わせ先 市教育委員会生涯学習課

☎72・7111内線217 ☎74・2707(Fax申し込み可)

ヒューマンライツ 人権講座

新聞などで子どもの関係した人権問題が報道されています。子どもを取り巻く環境の変化で、子ども自身迷っていることがあると思います。子どもが起こす事件の一方、保護者が子どもに対して繰り返す事件などで子どもの人権が侵害されています。

今一度、子どもの人権を考えてみませんか。

日時 9月14日(水)、午後7時30分～

場所 三橋公民館(入場無料)

テーマ 「子どもの人権を考える」

講師 「子ども支援の会」の福永宅司さん

問い合わせ先 市教育委員会人権・同和教育推進室

☎72・7111内線232

市総合美術展の作品募集

会期 10月30日(日)～11月6日(日)

会場 柳川市民体育館

応募部門 日本画、洋画、書道、写真。

題材は自由。今年度から「テーマ部門」はありません。出品作品はすべて本人があらたに創作したもので、公募展などで未発表のもの。出品点数は1人2点以内

資格 高校生以上

出品規定 日本画 20号以上100号以内で額または枠張り。洋画 20号以上100号以内で額縁付き。油彩・水彩・版画・パステル。書道 額装とし、仕上げ寸法は61cm×182cm以内で縦横自由。てん刻は1顆による印影を1点としガラス台紙張り(横30cm×縦40cm以内)。卷子本、帖は縦が45cm以内。横は自由。屏風は縦73cm横182cm以内の二曲屏風。積文は楷書で書き、作品と一緒に持参。写真 半切以上全紙までとし、枠張り(パネル張り、額縁は不可)。組写真、連作写真は1組を1点とし、120cm×90cm以内縦横自由の枠張り。デジタル加工、合成、加筆は不可。デジタルカメラでの撮影作品も応募可

出品料 一人につき一般1000円、学生(大学生以下)500円。2点出品も同額

作品搬入 10月1日(土)～10月2日(日) 午前10時～午後5時、市民体育館

作品裏面に作品票を張り付けてください。

審査日 10月4日(火)、5日(水)

問い合わせ先 市教育委員会生涯学習課
☎72・7111 内線222



「広報やながわ」では、毎月いろいろな活動をしている市民を紹介していきます。今月は北島智美さんです。

北島さんは学生だった熊本県立大学大学院 環境共生学研究科時代に旧大和町について研究しました。



北島 智美 さん

大和町栄・25歳

ふるさとの
まちづくりに貢献
したい

北島さんは大学の卒業論文で、「大和町のまちづくりの在り方」をテーマに選び、さらに大学院での修士論文でも大和町を研究し、開発・発展・成長型ではない新しい視点での地域計画を提案しました。

現在は、佐賀県鹿島市の設計事務所に勤め、古民家の再生などを手がけています。「趣味が仕事になったようなもので、とても楽しい仕事です」。小さいころから父親の営んでる設計事務所から「建築士になりたい」と言っていました。そのために大学も選びました。「今の若い人が目標がない、やりたい

ことが見つからないといわれていますが、そういう経験はないですね」。大学で「日本において環境に一番優しい建築物は伝統木造家屋だ」といわれたときは衝撃を受けました。建築士の勉強は、一流建築家の大きな建築物を見たり、構造を研究したりするものと思っていました。でも4年間、日本建築の良さ、木造建築のすばらしさを学ぼうと、古い街並みやまちづくりに興味が出てきます。「日本家屋はどこにでもあるし、街並みや路地が好きなので、旅行でも人と違った楽しみ方ができます。どこに行っても飽きないし、電車に乗っていても、もったいなくて眠れません。テーマパークや観光

地はどうも...」。大学で大和町を離れたことで、ふるさとの良さを再認識し学んだことを地元に戻りたいと、大学院では大和町を研究しました。研究を進めるに当たり、いろいろな人から話を聞きましたが、その人たちの生きざまにも感動しました。「農業はウソはつかない。頑張った分だけ必ず返ってくる」。海苔を研究し、海苔と対話しながら育てる。網を張れば採れていた昔と違い、努力したもだけが生き残る」。そんな話に何度も感心しました。

発・発展・成長だけでなく大和町の人たちが暮らしてきた「淡々」とした生活を見つめ直してもいいと思います。「一市二町が合併し、柳川市になりました」。新しい柳川市のことはよく知りませんが、研究したいという興味はありますが、大和町だからできたこと。これだけの大きなまちになると...。でも何かしら建築士としてまちづくりに貢献したいです」。

建築士としては、まだまだ修行の身」。1級建築士の資格取得が当面の目標。「築70年以上の木造民家で再生希望の方、処理に困っている方は『ie工房弘祐』(☎0954・62・7443)にご相談ください」。